

## 宮崎県のアマモ場で得られた日本未記録のイトカケガイ科貝類

三浦知之

〒 889-2192 宮崎市学園木花台西 1-1 宮崎大学

## はじめに

宮崎県を中心に海岸生物の調査しているが、門川町庵川地区の入り江にみられるアマモ場は、貝類などの希少種が数多く生息している(三浦ほか, 2012)。ここでは同所で得られた日本未記録のイトカケガイ科貝類を報告する。世界から知られるイトカケガイ科貝類はおおよそ 800 種で (WoRMS, 2020), そのうち 150 種が日本から知られている (日本分類学会連合, 2020)。貝類の中でも大きなグループで、白く繊細な貝殻はコレクターにも人気がある。他方、同科の貝類はイソギンチャク類への寄生生活が特徴で、ホスト不明のイトカケガイ科貝類を含めて、その生態も興味深い。

なお、本研究に使用した標本は、宮崎県総合博物館に保管登録する予定である。

## 材料と方法

材料は 2009 年から 2020 年までの間に、宮崎県門川町庵川東入り江のアマモ場周辺で採集した。干出時、海岸潮間帯の底質を 1 mm メッシュでふるって持ち帰り、顕微鏡下でソーティングした。標本は 70% アルコールに移して保存した。採集記録は以下の通りである。

2009 年 7 月 4 日、門川町庵川東入り江、14 (生貝), 19 (死殻); 2010 年 4 月 29 日、同所アマモ場、5 (生貝); 2010 年 7 月 24 日、同所ウミヒルモ群生地、10 (生貝); 2019 年 7 月 4 日、同所ウミヒルモ群生地、1 (生貝); 2020 年 6 月 7 日、同所西側水路、2 (生貝); 2020 年 7 月 21 日、同所西側水路、2 (生貝)。

## 結果と考察

イトカケガイ科 Epitoniidae Berry, 1910

(新称) モバタテヨコイトカケ

*Epitonium eutaenium* Dall, 1917 (Fig. 1A–G)*Epitonium eutaenium* Dall, 1917, p.479

トゲシノブ, 三浦ほか, 2012, 図 7-j, 表 1-2 (?  
*Epitonium* sp.; イトカケガイ科の 1 種として)

**形態・分布・生態** 門川町で得られた大型の生体標本は、殻高 8.0–9.0 mm, 殻径 3.2–3.4 mm であった (Fig. 1A–C)。螺層は胎殻が 3.2–3.3 層 (Fig. 1F, G)、後生殻が 6–7 層である。細長い円錐形 (尖塔形) で、体層に近い螺層の一部は互いに離れる (Fig. 1A–C)。殻は白色で、やや薄く、内部の軟体が確認できる。体層の縦肋は 8–10 条程度 (Fig. 1D)、縫合では上層の縦肋につながり、板状で肩部では鉤状に尖る。縦肋間には細かい螺条が密にあり、成長脈と交差して、格子状の彫刻をなす (Fig. 1E)。殻口は縦肋に縁取られる。臍孔はふさがる。蓋は角質半透明で、少旋型である (Fig. 1B)。

半透明な殻を通して観察した軟体部は、殻頂に近い部分 (中腸腺?) がピンク色で、体層と次体層には黄色と黒色の粒状斑が確認できた (Fig. 1A, B)。頭部触角 (cephalic tentacle) も黒色の地色に黄白色の粒状斑が散在し、触角の基部には眼がある (Fig. 1A)。足部の先端が二股に分かれ、上足触角 (epipodal tentacle) をなしている。足の両側には黄白色の腺状の斑紋がある。上足触角の先端近くの外側には短い角状の突起 (上足感覚器

Miura, T. 2020. New record of an epitoniid mollusk collected from a sea grass bed of *Zostera marina* in Miyazaki Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 47: 143–145.

☑ University of Miyazaki, 1-1 Gakuen-kibanadai-nishi, Miyazaki 889-2192, Japan (e-mail: miurat@cc.miyazaki-u.ac.jp).

Received: 12 October 2020; published online: 12 October 2020; [http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_047/047-028.pdf](http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_047/047-028.pdf)

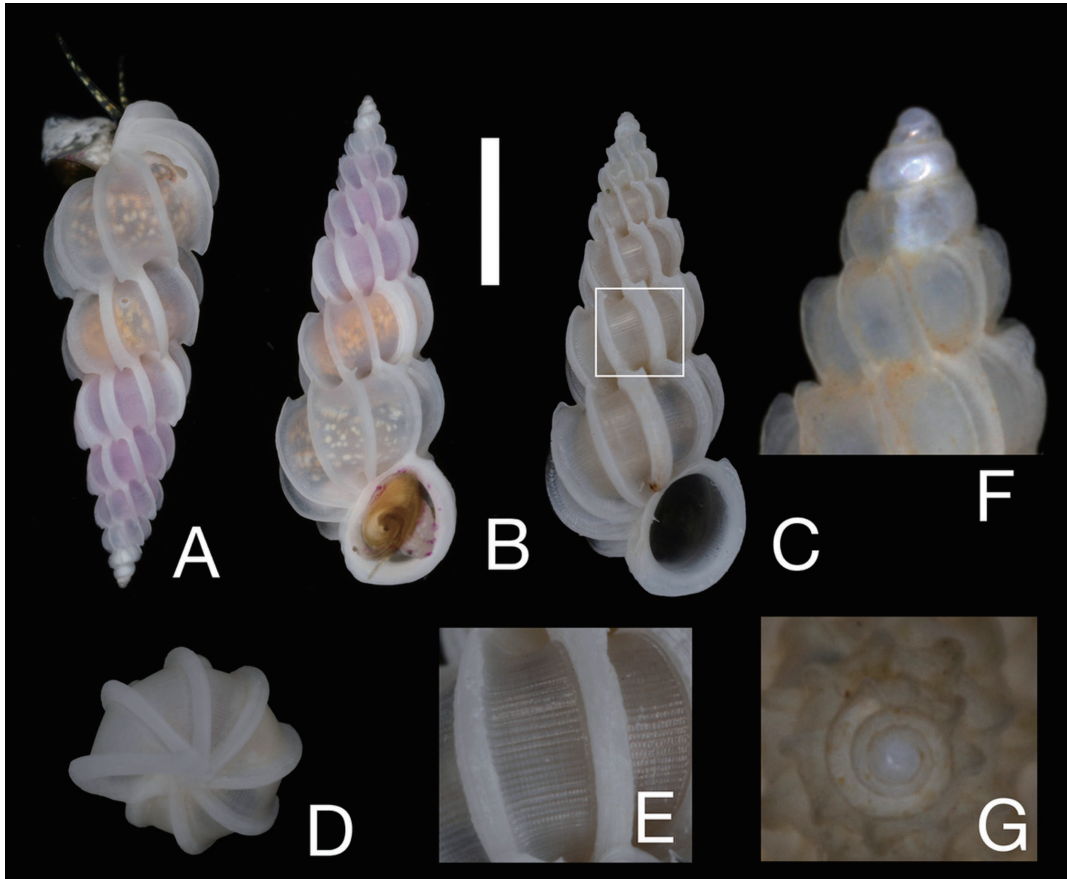


Fig. 1. *Epitonium eutaenium* Dall, 1917. A: living specimen collected from Iorigawa Inlet, Kadogawa Town, Miyazaki Pref., side view; B: the same, ventral view; C: preserved specimen in spirit, ventral view; D: the base of the same; E: enlarged shell surface of the same (square of C); F: protoconch, side view; G: protoconch, vertical view. Scale for A–D = 3mm.

官 epipodal sense organ) が見られる。軟体部の概形は、色彩を除き、Richter and Luque (2004) による *Epitonium dendrophylliae* Bouchet and Warén, 1986 の記述によく似ている。イトカケガイ科貝類に一般的な形態かと思われる。

Dall (1917) の記載と門川町産の標本は形態やサイズがよく一致している。この原記載には図が掲載されていないが、ネット上にホロタイプの写真が掲載されており、門川町産標本の殻形態ともよく一致している (Hardy, 2020)。

トゲシノブガイ *E. moolenbeeki* van Aartsen, 1996 (*Scalaria aculeata* G. B. Sowerby II, 1844, p. 96, pl. 32, figs. 35–37 の置換名)、トゲヒメネジガイ *E. angustum* (Dunker, 1861)、ホソヒメネジガイ *E. coretum* (Iredale, 1936) などに概形が似ているた

め、以前の報告では本種をイトカケガイ科の1種あるいはトゲシノブと同定していた (三浦ほか, 2012)。しかし、これら3種では縦肋間に彫刻が見られず、平滑であり、本種とは容易に区別される。縦肋間に螺条が見られる点で、タテヨコトカケ *E. eusculptum* (G. B. Sowerby III, 1903) やサガミイトカケ *E. eximium* (A. Adams and Reeve, 1850) にも似るが、縦肋の数が本種では8–10条で上記2種では15–20条程度で倍以上あるため、殻形態が明らかに異なる。

本種の標本は、宮崎県門川町庵川東入り江アマモ場と周辺のノトウミヒルモ群生地で、4月から7月に採集されている。しかし、定期調査でほぼ1年を通して見られていることから、出現に季節性はないと考える。また、特定のイソギンチャ

ク類などの刺胞動物と混獲されたこともないので、今のところ餌生物もあきらかではない。

文献あるいはネットの情報から、北米・中南米の太平洋・大西洋の両側およびフィリピン・台湾等に記録されるようであるが、一部は明らかに形態が異なり、詳細は不明である。なお、Dall (1917)による原記載地はカリフォルニア湾である。

### さいごに

宮崎県門川町庵川地区のアマモ場およびコアマモ場は、4.8 ha とされ (三浦, 2013), モバヒサスケゴウナなどが生息する貴重な湿地環境である (三浦, 2020)。2020年を通した調査では、夏枯れの始める前に、藻場面積が2013年の1.5–2倍程度に広がっていることがわかった。アマモ群落の分布は従来とほぼ同じであったが、新川河口側に向かってコアマモ群落が拡散していた。過去数年の豪雨による淡水流入の増加あるいは源流域のゴルフ場閉鎖 (2017年3月31日)による除草剤等の流入停止など、いくつかの要因が重なり、コアマモ類の群落が復活したものと推定される。モバタテヨコイトカケおよびモバヒサスケゴウナ等、他では記録されていない希少な生物については今後も観察の継続が必要である。

### 引用文献

- Adams, A. and L. A. Reeve. 1850. Mollusca. Part 6, Mollusca II, in the Zoology of the Voyage of H.M.S. Samarang; Under the Command of Captain Sir Edward Belcher, C.B., F.R.A.S., F.G.S., During the Years 1843–1846, ed. A. Adams, pp. 25–44, pls. 10–17.
- Dall, W. H. 1917. Notes on the shells of the genus *Epitonium* and its allies of the Pacific coast of America. Proceedings of the United States National Museum, 53 (2217): 471–488.
- Dunker, W. 1861. Mollusca Japonica descripta et tabulis tribus iconum. E. Schweizerbart, Stuttgart, iv + 36 pp., 3 pls.
- Hardy, E. 2020. *Epitonium (Asperiscula) eutaenium* in Hardy's Internet Guide to Marine Gastropods. <[http://www.gastropods.com/5/Shell\\_11735.shtml](http://www.gastropods.com/5/Shell_11735.shtml)> (2020.10.10)
- Iredale, T. 1936. Australian molluscan notes, no. 2. Records of the Australian Museum, 19 (5): 267–340, pls. 20–24.
- 三浦知之. 2013. 宮崎県の干潟面積に関する試算. 宮崎大学農学部研究報告, 59: 45–55.
- 三浦知之. 2020. ‘生きている化石’ガクバンゴウナ科貝類の南九州での記録. Nature of Kagoshima, 47: 133–136.
- 三浦知之・三浦 要・富岡 宏・佐伯めぐみ・三橋利恵. 2012. 宮崎県門川町庵川アマモ場とその周辺に出現する貝類, 甲殻類および腕足類. 宮崎大学農学部研究報告, 58: 51–68.
- 日本分類学会連合. 2020. 日本産生物種数調査. <<http://www.ujssb.org/biospnum/search.php>> (2020.10.10)
- Richter, A. and Á. A. Luque. 2004. *Epitonium dendrophylliae* (Gastropoda: Epitoniidae) feeding on *Astroides calycularis* (Anthozoa, Scleractinia). Journal of Molluscan Studies, 70: 99–101.
- Sowerby, G. B., II. 1844. Monograph of the genus *Scalaria*. In: G.B. Sowerby II (ed.), Thesaurus Conchyliorum. Vol. 1 (4): 83bis–108bis, pls. 32–35. London.
- Sowerby, G. B., III. 1903. Descriptions of fourteen new species of marine molluscs from Japan. Annals and Magazine of Natural History, Series 7, 12: 496–501.
- WoRMS. 2020. <<http://www.marinespecies.org>> (2020.10.10)